
第4章 主体間の連携の推進

1 市町村の取り組み

(1)分別の徹底

- チラシ・パンフレット

PET ボトルは識別表示マークがあるため、比較的他の素材と分別がしやすい素材ですが、それでも塩ビボトルの混入や、シャンプーや洗剤などのボトル、鶏卵パックも出してよいものだと思われるケースが見受けられます。

対象とならないプラスチックボトルなどを混入しないようにしていくためには、分別カレンダーなどに明記するなど、「出してはいけないもの」をはっきり伝える取り組みがなされています。

- 集積所での指導

都市部などでは、単身者や学生が多い（住民票を移していない）などの要因で、分別ルールを記載したチラシやパンフレットが一部の住民に行き渡らないケースもあります。また、最近では新聞の購読率の関係で、新聞にチラシや広報を折り込んでも、これに気づかないケースもあります。

近年では自治会の加入率も低下気味で、住民に最低限の情報を伝達することですら、次第に困難になっているのが現状です。

対策としては、必ず地域のごみステーションにはごみを排出するので、ステーションに PET ボトルの分別方法を分かりやすく表示した看板を取り付ける、ステーションに分別指導員を配置するなどの取り組みがなされています。

- 集合住宅などでの対策

マンションやアパートなどの集合住宅などで特に分別が悪い状態が見受けられる場合は、家主や管理人を通じた協力要請を行うことが考えられます。

不在家主が多い地域などでは、引越しの際に仲介する不動産業者に分別カレンダーなどを住民に渡すようお願いしている例もあります。

- インターネットの活用と留意点

近年では、市町村の運営するホームページにて、地域のリサイクル情報や各種リサイクル活動に必要な情報を提供している例もふえてきています。特に学生アパートの多い地域では、学生は大学でインターネットを利用できるため効果があるといった事例も見られます。

ただし事例調査では、ホームページに地区ごとのごみ収集カレンダーを掲載すると、自分の収集日に出しそになった住民が他地区のステーションに捨てに行く可能性もある、といった指

摘もありました。インターネットのホームページは地域に関係なく誰もが見る事が出来るので、その扱いには留意が必要です。

(2)環境教育

- 施設見学会やイベント

リサイクル施設や焼却施設・埋立施設などの見学会の実施は、大きな啓発効果があり、また、リサイクル関連イベントの開催は、多くの方に機会を提供することになります。

- 環境学習の推進

啓発用のビデオの貸し出しや、リサイクル関連住民団体に対する学習の場の提供など、多様な学習の機会を提供する取り組みが行われています。また、学校教育の場で環境学習を実施、実践している市町村もあります。

(3)事業系 PET ボトル対策

- 事業者等への協力要請

事業者から排出される一般廃棄物については、小口のものについては市町村収集への排出を認めている市町村もあります。

事業者から排出される事業系 PET ボトルの分別排出の徹底は、住民の方への伝達方法とは異なる方法が必要と考えられます。事業系 PET ボトルをどのように扱うのか方針を明確にした上で、地域の事業者への協力要請を行うことが必要と考えられます。

2 PET ボトルリサイクル推進協議会の取り組み

2.1 消費者への情報提供、普及啓発

- 展示会への出展

消費者の参加が多い展示会に積極的に参加し、PET ボトルへの理解とリサイクルを含む 3R の促進に努めています。2007 年度は 12 月 11～13 日に開催された日本最大の環境イベントである「エコプロダクツ 2007」に 3R 推進団体連絡会の共同出展ブースと PET 推進協を始めとする 8 団体ブースが連なる形で出展を行いました。

- ホームページの充実

ホームページは推進協議会の活動全般を掲載しています。推進協議会が発行している出版物（年次報告書、広報誌「RING」、再利用品カタログ、KIDS 向け小冊子「だいすき PET ボトル」）や啓発 DVD もご覧いただけます。また、「What's new／最新情報」というサイトを設けて、推進協議会の意見等も掲載しています。

2.2 連携・交流の場づくり

- 自治体との交流会の開催

自治体と事業者の連携のための意見交換等を行うことを目的に「PET ボトル 3R 連携研究会」を開催しました。具体的には平成 19 年度に 5 市区と 4 回にわたって意見交換等を行い、平成 20 年度に 8 市区と事業者で、本書を作成しました。

- 海外のリサイクル団体との協力

当協議会のメンバーは 2007 年 9 月に韓国を訪問し、日本における PET ボトルリサイクルの現状等について国際シンポジウム「ISFR4th」にて講演しました。
また、あわせて社団法人韓国 PET 瓶資源循環協会や企業などを訪問し、韓国における PET ボトルリサイクルの現状や、日本に先駆けて上市されている牛乳用 PET ボトルの現状等について調査を行いました。

表 30 連携に関する自主行動計画（2007 年度）

目 標	進捗状況
市町村との連携	先進市町村（5 市区）との定期的情報・意見交換会を開催した。
消費者団体との連携	消費者団体との情報・意見交換会に参加した。（6 回）

- 広報誌の発行

最新の 3R 活動の情報を提供するために、年 2 回広報誌「RING」を発行しています。

Vol.20 では市町村特集として、小樽市、秋田市、京都市、奈良市、大分市、福岡市の 6 都市に伺い、地域特性に合わせた分別・収集の方法やごみ減量化・資源化への取り組みを掲載しました。

Vol.21 では特集「3R 新時代の展望」と題して、「3R 推進マイスター」土屋正春氏（滋賀県立大学副学長）に「マイスター」としての心構えや実際の取り組み内容、循環型社会のあり方、各主体間の連携に必要なもの、事業者への提言などを掲載しました。また、Q&A では 2008 年 4 月より指定 PET ボトルに追加される 5 品目に関して、取り上げ解説しました。

- 啓発ツールの提供

小学 4 年生の環境教育にターゲットを設定した啓発 DVD「知ってほしい PET ボトルのこと」を配布しています。少女と PET ボトルのキャラクター「ペットン君」を登場させ、PET ボトルの基礎知識からリサイクルの最新情報までを紹介し、事業者の 3R 推進取り組みを伝えています。

また、全国のリサイクルプラザ等にポスターや再利用品を提供しています。2007 年度は 22 カ所のリサイクルプラザ等に提供を行いました。

表 31 広報に関する自主行動計画（2007 年度）

目 標	進捗状況
広報活動の推進	消費者・市町村に対しホームページ、広報誌『RING』（年 2 回）、年次報告書、再利用品カタログ等による情報提供及び啓発活動を行った。
	市町村や各種展示会へのサンプル・グッズおよび資料の提供を行った。（67 市町村）
	年次報告書の記者発表会を開催。多数の新聞などに掲載され。高い関心と評価を受けた。
	市町村へのお願いとして、円滑な引き渡しに関する要望書を配布した。
	3R 推進団体連絡会の一員として共同事業を実施した。 （自主行動計画のフォローアップ、フォーラム・セミナーの開催、エコプロダクツ展への出展）

3 3R 推進団体連絡会としての取り組み

3.1 消費者への情報提供、普及啓発

- 自主行動計画フォローアップ報告会の実施

容器包装関連事業者八団体からなる 3R 推進団体連絡会（以下連絡会）は、2006 年 3 月末に 3R 自主行動計画を公表し、同年 4 月より 3R 自主行動および主体間の連携に資する取り組みを推進してきました。連絡会は、2007 年 12 月 18 日経団連会館にて、初年度となる 2006 年度の自主行動計画フォローアップ報告会を、報道関係者を招き開催しました。

3.2 連携・交流の場づくり

- フォーラム in 神戸の実施

2007 年 9 月 19、20 日、神戸市にてテーマ「多様な連携と協働による社会的効率の高いシステムを考える」のもとフォーラムを開催しました。自治体、消費者および事業者 214 名の来場者があり盛況でした。1 日目は、午前に基調講演等、午後に 3R に係る 5 つの分科会を開催し、それぞれ熱心な議論が行われました。

- 3R 推進全国大会への出展と第 1 回 3R セミナー開催

第 2 回 3R 推進全国大会は、2007 年 10 月 17～19 日に「エコテクノ 2007」との共催で北九州市にて開かれました。連絡会は、展示会出展を行うとともに、2007 年度第 1 回目「みんなが主役！共に行動するための 3R セミナー」をエコテクノのセミナー会場にて開催し、約 100 名の方々に参加いただきました。

- 3R リーダー交流会の開催

消費者・事業者のネットワーク構築の場としての交流会を実施しました。2007 年度は、消費者（10 名）と事業者（8 名）が年 4 回集い、容器包装の 3R 推進に必要とされる情報の表現方法や発信手法等について検討を行いました。